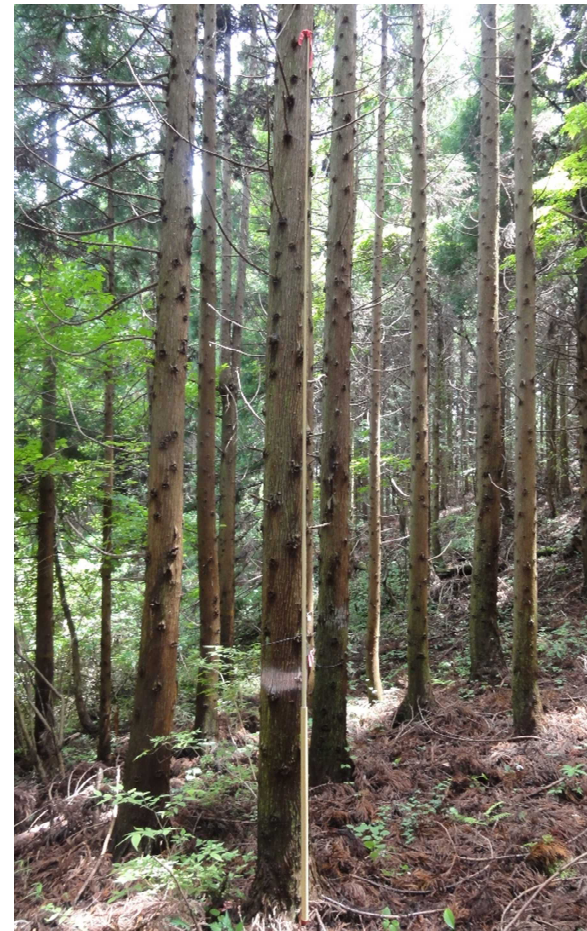


コンテナで育苗したエリートツリーの植栽試験

- 場所：**茨城森林管理署管内
小松沢国有林1186ほ林班小班の一部
- 期間：**平成27年度～29年度
- 共同研究機関：**森林総合研究所林木育種センター
- 概要：**第二世代精英樹（エリートツリー）の交配家系を植栽（コンテナで育苗等）し、下刈の必要回数等を検証するとともに、成長特性を解明することでエリートツリーの育林特性に関するマニュアルを作成し育林技術の普及を図る。
- 面積：1.4 ha程度
 - 標高：約100m
 - 傾斜：約20度



選抜されたエリートツリー

平成29年度完了報告添付資料 (5-1)
「コンテナで育苗したエリートツリーの植栽試験」

供試苗木

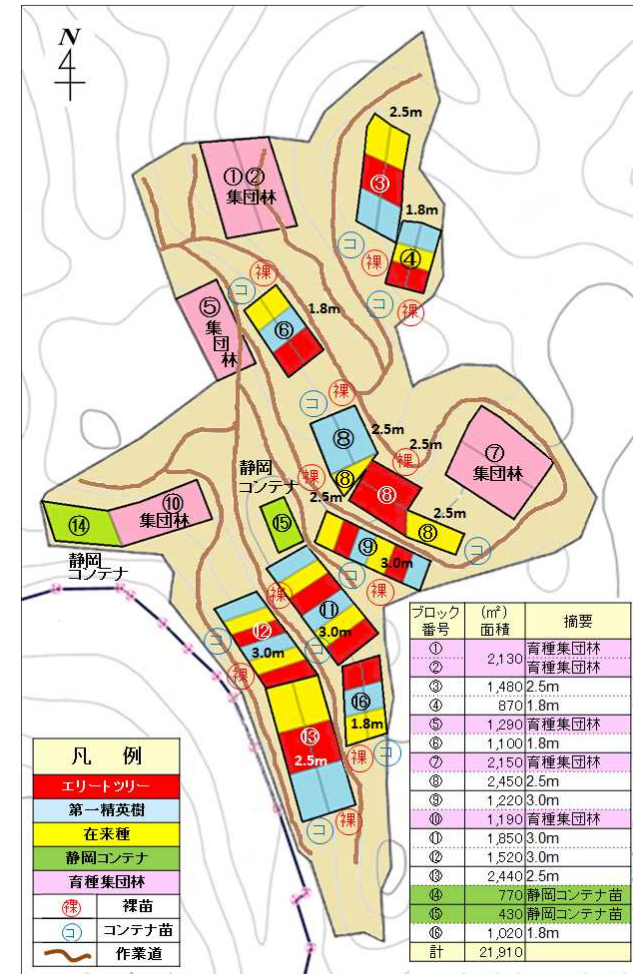
- 1 エリートツリー交配種子(F₂)、12家系
- 2 第一世代精英樹交配種子(F₁)、6家系
- 3 在来系統オープン種子

試験地ごとの植栽本数

ブロック番号	用途	本数	備考
3	コンテナ及び裸苗 (2.5m間隔)	240	コンテナ120本、裸苗120本
4	コンテナ及び裸苗 (1.8m間隔)	294	コンテナ147本、裸苗147本
6	コンテナ及び裸苗 (1.8m間隔)	336	コンテナ168本、裸苗168本
8	コンテナ及び裸苗 (2.5m間隔)	432	コンテナ216本、裸苗216本
9	コンテナ及び裸苗 (3m間隔)	154	コンテナ77本、裸苗77本
11	コンテナ及び裸苗 (1.8m間隔)	336	コンテナ168本、裸苗168本
12	コンテナ及び裸苗 (3m間隔)	180	コンテナ90本、裸苗90本
13	コンテナ及び裸苗 (2.5m間隔)	420	コンテナ210本、裸苗210本
16	コンテナ及び裸苗 (1.8m間隔)	242	コンテナ121本、裸苗121本
総植栽本数		2634	

各集団 (F1、F2、在来) は各ブロックにほぼ同数植栽

調査ブロック位置図



調査内容

コンテナ苗

H27年春（植栽直後）、
H27年秋、およびH28年秋に
樹高及び地際径（一部）測定

裸苗

H28年春（植栽直後）、およびH28年秋に
樹高及び地際径（一部）測定

兔の食害がひどい個体は除去

樹高、形状比（樹高/地際径）についてコンテナ苗と裸苗で
集団（F1、F2、在来）ごとに比較

今回は植栽密度の違いおよび家系間差も考慮しない

平成29年度完了報告添付資料 (5-1)
「コンテナで育苗したエリートツリーの植栽試験」

試験地の状況



平成28年7月の状況

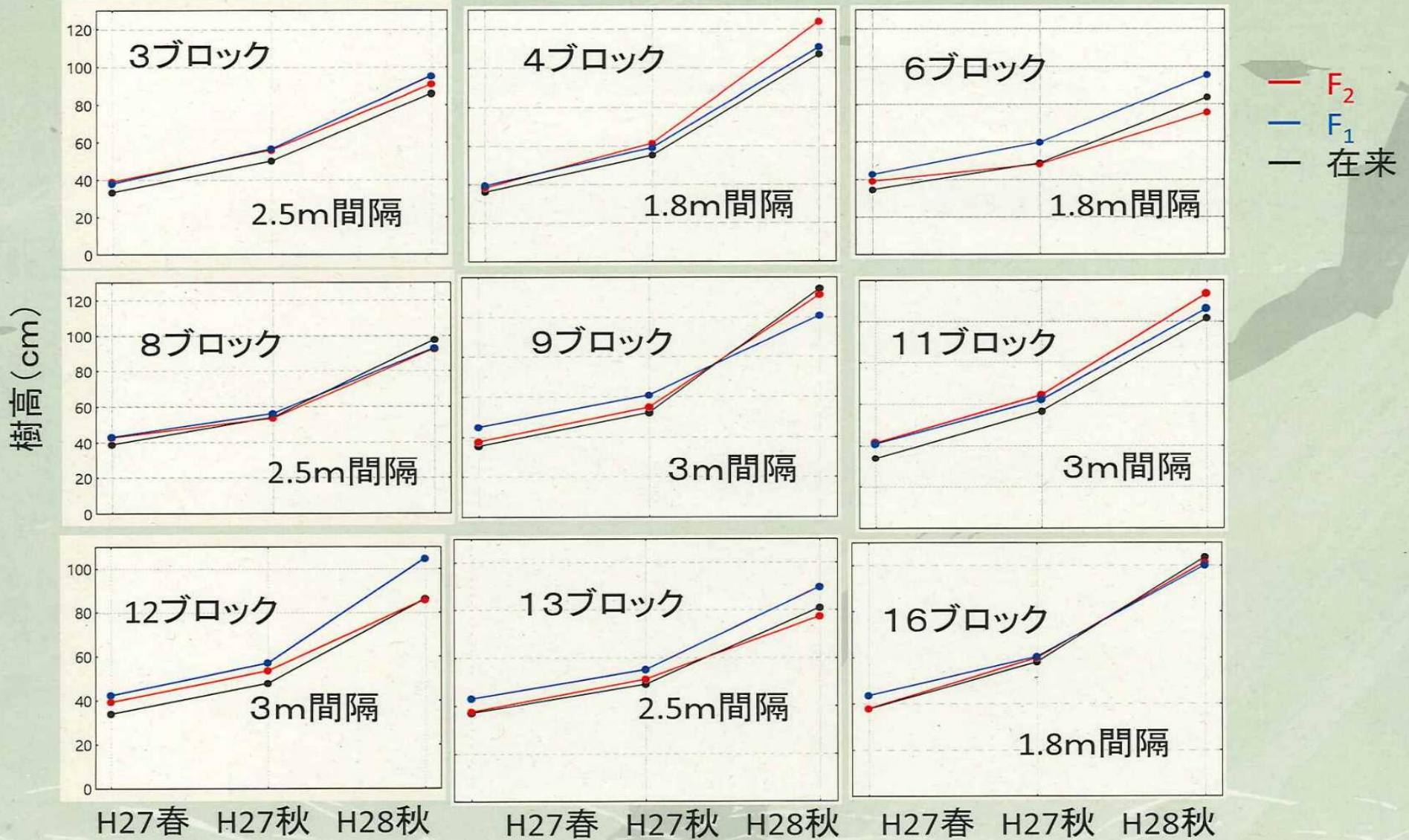


平成28年12月の状況

兎による食害

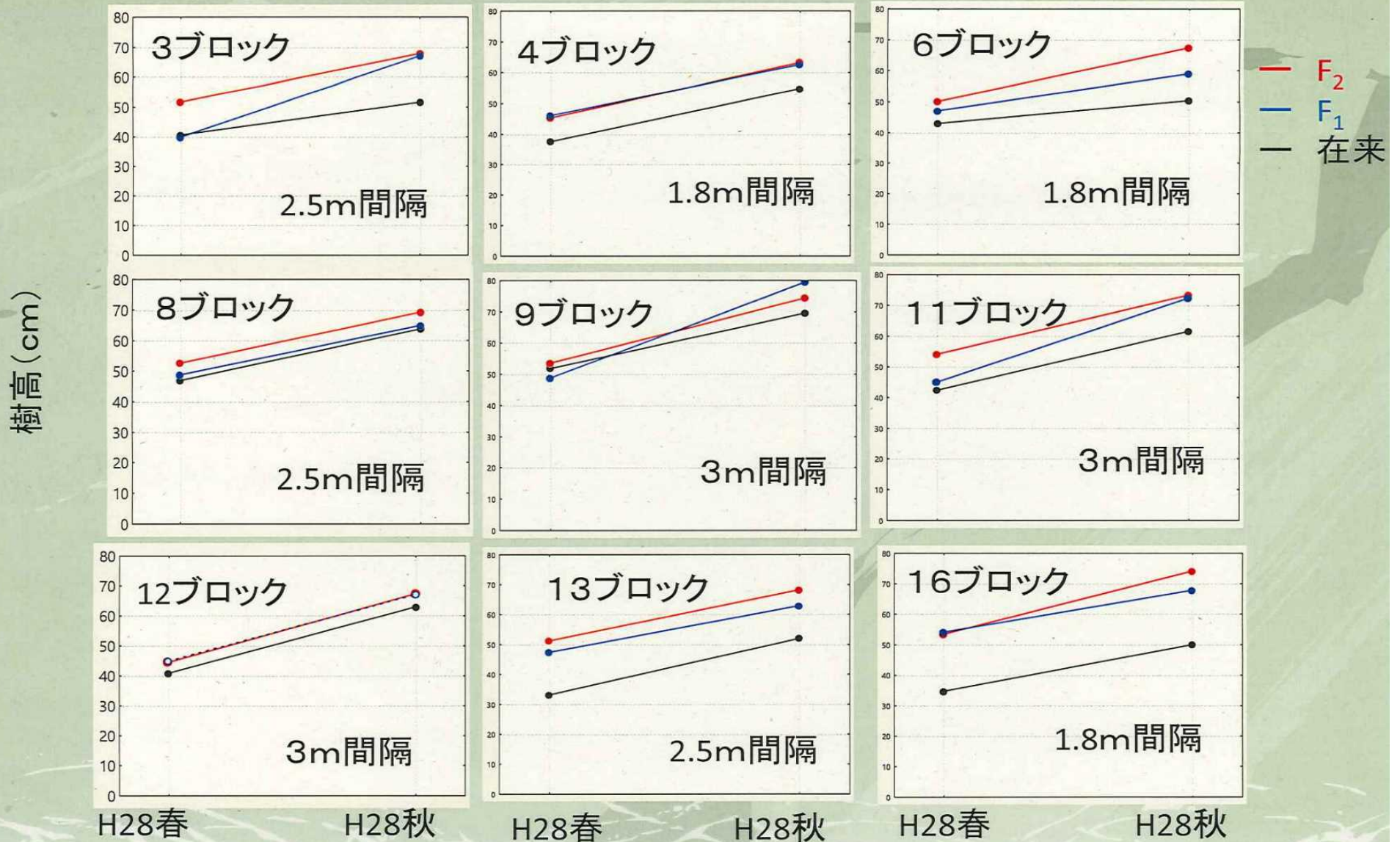


平成29年度完了報告添付資料 (5-1)
「コンテナで育苗したエリートツリーの植栽試験」



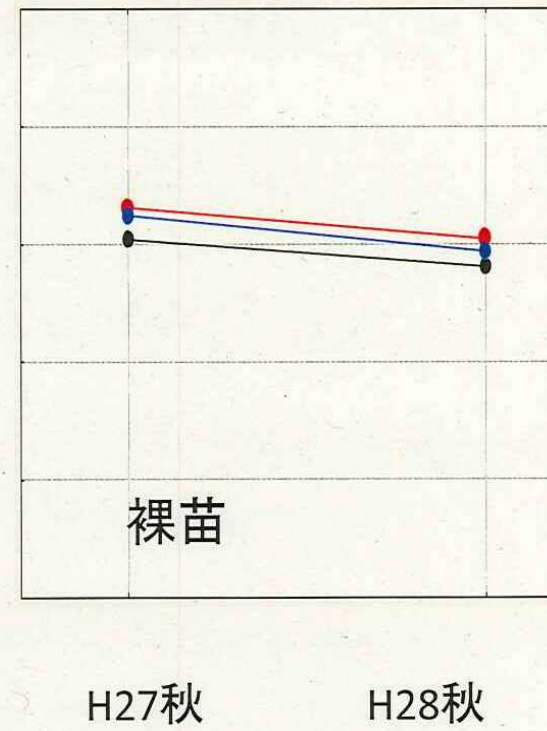
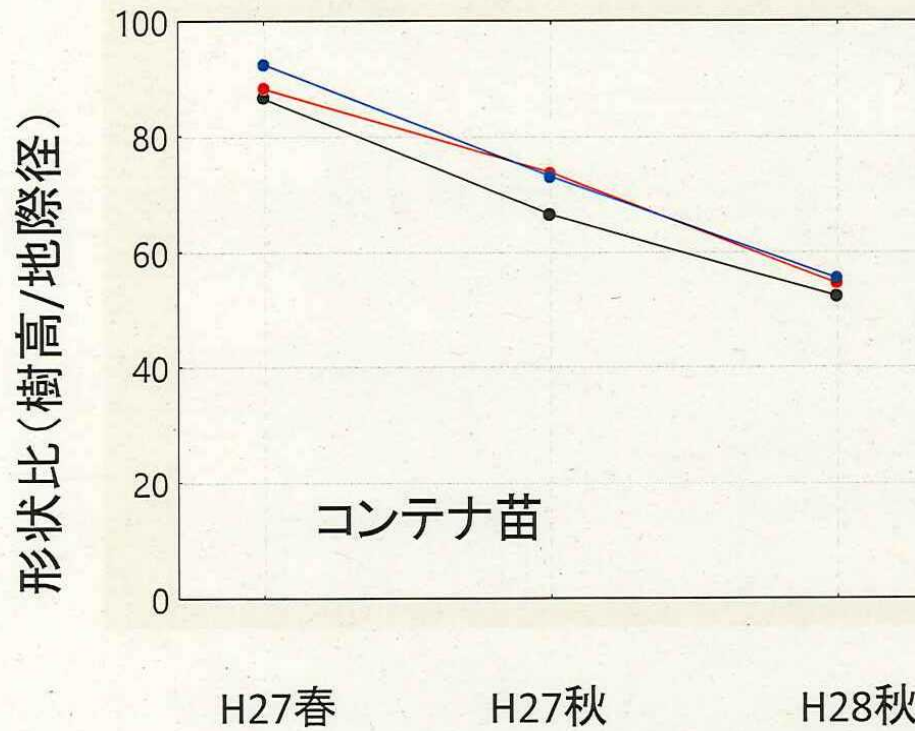
各ブロックでのコンテナ苗の集団ごとの平均樹高の推移

平成29年度完了報告添付資料 (5-1)
「コンテナで育苗したエリートツリーの植栽試験」



各ブロックでの裸苗の集団ごとの平均樹高の推移

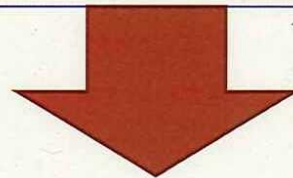
平成29年度完了報告添付資料 (5-1)
「コンテナで育苗したエリートツリーの植栽試験」



集団ごとの平均形状比の推移

まとめ

- 1 コンテナ苗の2成長期後の樹高成長は、集団間であまり差がみられない
(ウサギの食害の影響大)
- 2 一方、裸苗の1成長期後の樹高成長は、どのブロックでもF1およびF2の
集団とも在来集団よりも優れている(ウサギの食害の影響小)
- 3 形状比は、コンテナ苗および裸苗でも集団間で差異がみられない



引き続き樹高のデータを取得し、エリートツリーの育林特性を解明するとともに、
マニュアルの作成を進める